

SORA

web magazine 2017. feb. vol.81

Malapascua Philippines

ニタリザメvs他のポイント！

2度目の取材で知ったマラパスクアの素顔の海 **MAP CLICK!** Photo & Text : Yasuaki Kagii

2015年12月中旬にマラパスクアへ2度目の取材に赴く。1度目の昨年は、ニタリザメとの遭遇に大感動！ もちろん他のポイントもしっかり潜ったが、そのイメージは、「ニタリザメ以外はマクロかな？」というものだった。しかし、前回潜れなかった人気のポイント、ガトーアイランドなどにも興味津々。今回は、ニタリザメだけに心が引っ張られるのではなく、マラパスクアの他のポイントも、しっかり潜ってきた。その答えは「マラパスクアはニタリザメではなく、他にも大きなポテンシャルを秘めたポイントがいくつもあった！」ということだった。続きは是非、記事を見てね！

S 驚き Surprise

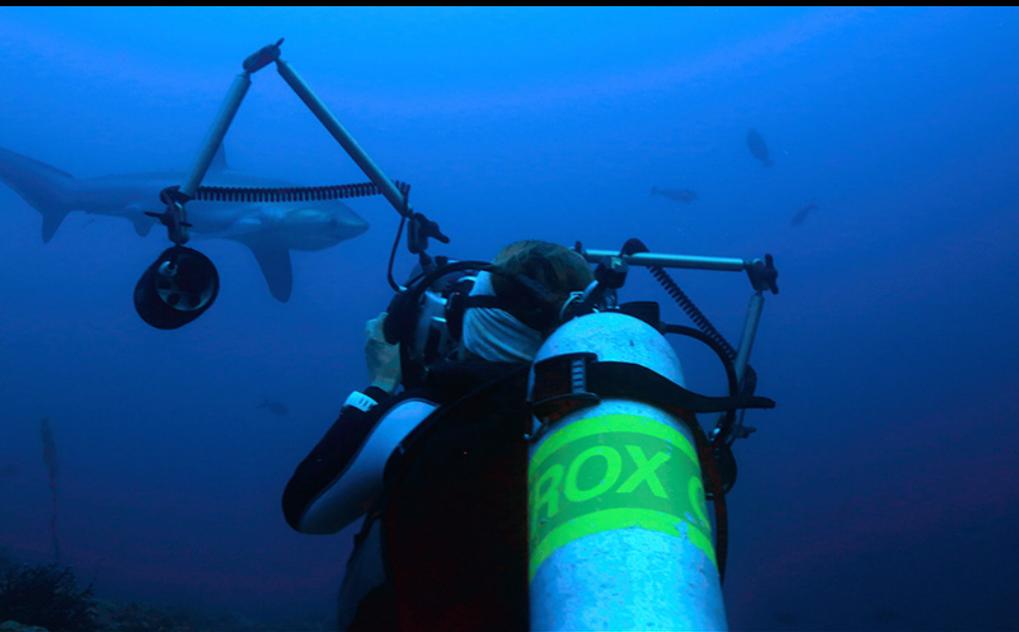
昨年、随分とニタリザメの良い撮影をし、かなり好印象のモノダショール。今回は、昨年を上回る撮影が出来るのか?と少しハードルが高かったが、とにかく、2015年12月中旬にマラバスクアに赴いた。夜にリゾートに着き、翌朝4時半にダイビングセンターに集合し、ナイトロックスなどの準備をして、5時に出発。6時くらいにポイントに着いてエントリーした。マラバスクアのニタリ狙いのダイビングは、早朝のようなイメージがあるが、ボートの移動中に朝日を迎え、エントリーする頃にしっかりと明るくなっているので、薄暗い海中で潜るわけではない。エントリーして、少し沖合に。残念ながら透明度がそれほど良くなく、昨年にずっと居たクリーニングステーションの周辺で待っているのではなく、ドロップオフ沿いを少し流していく。ガイドさんの指示で、水深26mあたりで待機。すると深場からすうーとニタリザメが現れ、近くを泳いでいく。とにかく出会ったし、撮影も成功した。そして、ドロップオフ沿いを進んでいくと、またも向こうから泳いで来た。そして、ガイドさんの指示で水深20mの棚上で待つ。ガイドさんが、「ここで待って!」と何の変哲もない場所で待つようにジェスチャーする。半信半疑で待っていると、すぐにニタリザメが現れた。ガイドさんは魔法使い?と本当に疑ってしまった。そして、そこに長く滞在するわけでもなく、あっさりと移動を開始。昨年のクリーニングステーションに着くと、たくさんのダイバーが並んでいる。その視線の先には、優雅に泳ぐニタリザメ。透明度がいまいちなので、撮影しても少しぼやけるので、眺めるだけにした。それにしても、尾の長い優雅なサメだ。こんな風に、のんびりとダイバーの前を泳いでいる姿を見ると、これもサメとダイバーの面白い関係だなとつくづく思った。クリーニングステーションだけでなく、ポイントのドロップオフ沿いなどを少しガイドさんと散策すると、思いがけないニタリザメとの出会いがある。それもこの潜り方の一興であることを知った。



ニタリザメとダイバーが共存する海



フィリピン・マラバスクア
Malapascua
Philippines



こんな出会いができる
マラパスクアの海って、やっぱりすごい！

驚き
Surprise

ニタリザメと同じくらいの 価値があったガトウアイランド

フィリピン・マラパスクア
Malapascua
Philippines

昨年、マラパスクア取材の時に、スケジュールの都合で落ちなかったポイントがあった。それは、ガトウアイランド。リゾートから北上し、ボートで約1時間行ったところにある小島で、マラパスクア周辺のダイビングポイントでも人気がある。1本目潜ったポイントは、島の南側。エントリーして、アンカーロープ沿いに潜降。まず、気がついたのは、グルクマの群れ。透明度があまり良くなく、プランクトンが濃いせいか、勢いよく口を開け、集団で捕食している。そして海底を見るとピンク色のソフトコーラルが点在している。ガイドの後をついていくと、そのソフトコーラルが群棲していた。ブリーフィングでは、美しいポイントだと聞いていたが、想像を遥かに越えた景観が広がっていた。フィリピンの他のエリアでこのピンクのソフトコーラルの群棲があるエリアを知っているが、ここは格別だった。まだまだ知らない美しい海はある。ソフトコーラルの周辺でゴンベを見つけては、撮影。クマノミを見つけては撮影。どんどんガイドさんが見つけてくれるウミウシを見つけては、撮影。至るところにソフトコーラルがあるので、どんどんと撮影は進んでいく。今日、ここで2ダイブしかできないのもったいない。できれば、もっと潜りたい。海底で、タツノオトシゴの仲間を発見。そして、驚いたことにカエルアンコウがゴロゴロと転がるようにいる。そういえば、一番最初に見たネムリブカのことはダイビングの後半の時点で、すっかり忘れていた。



S 驚き
Surprise

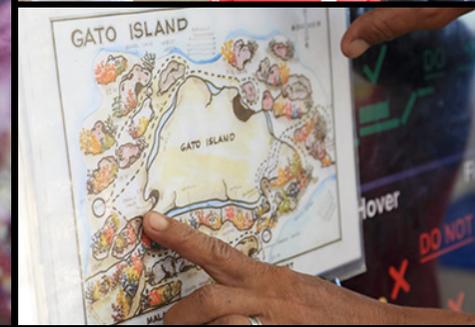
物語のようなポイント

フィリピン・マラパスカ
Malapascua
Philippines



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

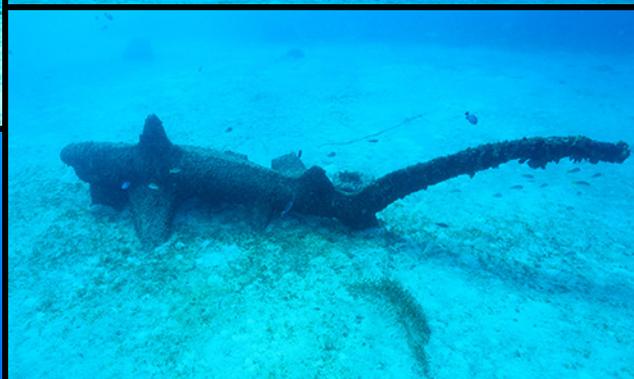




ガトーアイランドの魅力を紹介

2本目のポイントは島の反対側に廻って潜る。ここは大きなトンネルのあるポイント。エントリー直後から、すぐにトンネルの中へ。トンネルのサイズは、列車が通過できそうなくらいの大きさで、なかなかの地形ダイブ。入り口から入って振り向くと、すぐにハタンボが群れて、まるで入り口のドアを閉める感じ。トーチがないと真っ暗な暗闇の中、明かりを点すと、真っ黄色のイボヤギが群棲している。そして、ガイドの後に付いていくと、ライトを振って合図があった。よく見ると、3匹のネムリブカが穴の中で寝ている。接近すると泳ぎ出した。私たちダイバーの周囲をぐるぐる回る。危険性はない。出口の明かりが飾り窓のようで、差し込む青い光がなんとも美しい。さすがにネムリブカも我々が気になったか？ 穴から泳ぎ去った。私たちもそのタイミングで外に。トンネルを抜けた世界もピンク色のソフトコーラルが群棲する世界だった。なんか物語のあるポイントだな、と思いながら、安全停止に向けて、浮上を開始した。





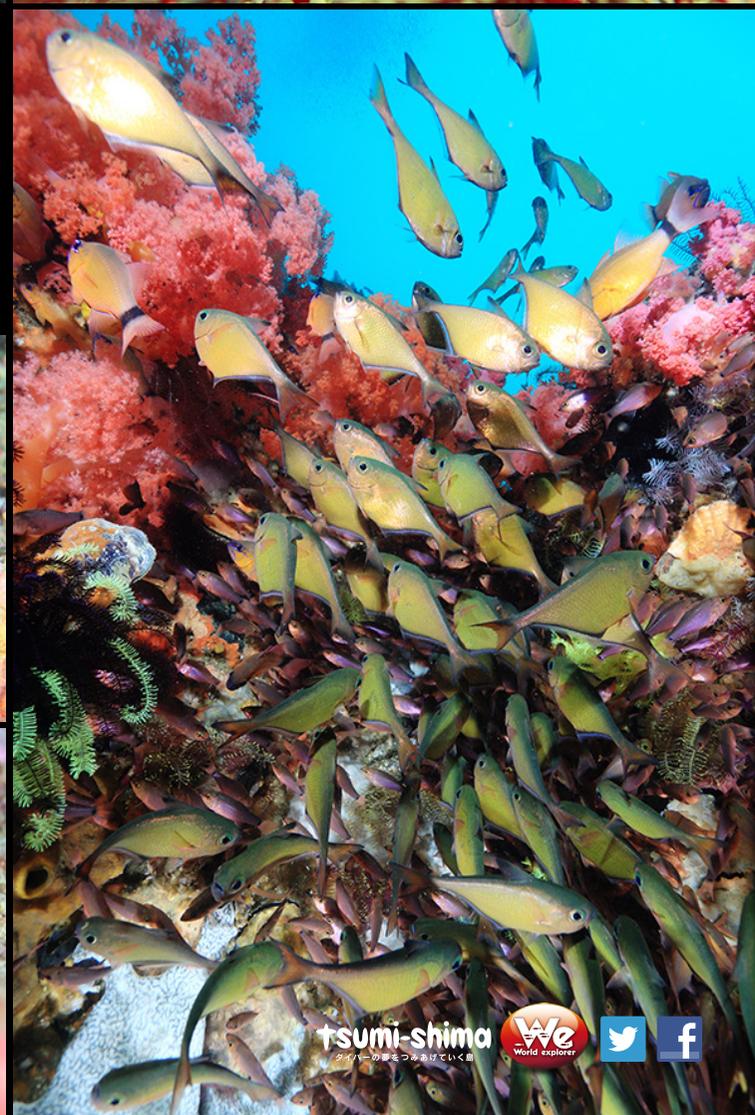
少し沖合になる素敵なハウスリーフ

リゾートの目の前にあるハウスリーフ。ビーチエントリーではなく、ポートで2分ほど沖合に出る。海中には様々なオブジェが置いてある。なかでも一番はニタリザメの大きな石像。よくこんなものを沈めたな?と感嘆するが、それでも、水中で見ると今朝のことが思い出されて悪くない。他に沈んでいる人工物にもたくさんお魚が住んでいる。驚いたのは、ムレハタテダイの群れ、私が接近すると、群れが私を取り込んだ…。他にツバメウオ、ゴンズイ、フュージュラーフィッシュの群れが人工物に群れていた。人工物を魚礁なんて、と思っていたが、それほど悪くないかも。今回は、その魚礁から30mほど離れて、砂地をダイビングした。ハギの幼魚やヒトデに擬態したエビ、卵を持ち威嚇してきたカニなどなど、正直、とても面白かった。ひとつひとつの出会いが、なぜか他の海とは違う、少し特別な感じ。実は、人工物から離れたコース取りをすると、平均水深が20mになる。少し深いので、とても最短のポイントとは思えないくらい面白いので、ナイトロックスでじっくり潜ってほしい。



かなり好みだったノースポイント！

ガトーアイランドと同じく素晴らしいポイント。島の北側にあるポイントで、リゾートからボートで約15分。エントリーして水深を下げると、ヤギやイソバナなどが点在するカラフルな海底に降り立つ。そこを丁寧に探していくと、イソバナカクレエビやチョウチョウコショウダイの幼魚、ハゼやウミウシの仲間が見つかる。砂地との境となる水深20mあたりの背の低い壁に着くと、岩の亀裂にハタンポとキンメドキがごちゃり群れていた。そこに頭を突っ込みながら撮影したが、彼らが水中で動く音が忘れられない。無音の海中に響く、サラサラサラと言う音。どこか遠い場所から聞こえてくるようだけど、すぐ耳の傍で鳴っている。中型魚に襲われて、魚たちがゴー！と水中を逃げ惑う音ではない。聞いていて、心地よい、と同時にそのまま引っ張っていかれそうで、少し怖い。2種類の魚影とピンクのソフトコーラルの群棲も併せて撮影。それにしても、知らないポイントに潜るのは本当に面白い。その後も擬態するカエルアンコウや巨大コブシメに出会い、大満足でダイブを終えた。ここもまた是非、潜りたい。



Rロマンス omance

マラパスクアの海で、素敵な出会いがたくさんあった。ニタリザメの魅力と同じくらいポテンシャルを持つ、他のダイビングポイントも本当に素敵だった。マラパスクアには、まだまだ知らない手つかずの海中があることを知り、本当に幸せに思えた。そして、海岸線でも素敵な笑顔に出会えた。「海岸線でみんなの写真が撮りたい!」という、一斉に海に来てくれた。撮影した後に、誰もお金をくれ!とか言わない。ただただ笑顔を私にくれた。海と同じくらいピュアな気持ちに感謝。

フィリピン・マラパスクア
Malapascua
Philippines



R ロマン
Romance

素敵なリゾートと生命溢れる海、
それがひとつに繋がっている

フィリピン・マラパスクア
Malapascua
Philippines

DIVE SCHEDULE

tsumi-shima
ダイバーの夢をつまみあげていく



マラパスクア・エキゾチック・アイランドリゾート&ビーチリゾート

マラパスクアの海岸線に並ぶリゾートのなかでも老舗のダイブリゾート。とにかく開放的な気持ちよい空間が印象的で、サンドカーベットのレストランでは、海を眺めながらずっとまどろむことができる。リノベーションを終えている施設は、新しくデラックスやスタンダードなどカテゴリーのある客室が計 30 室。レストランメニューはアラカルトで、ヨーロピアン&アジアンテイストの美味しいお料理を提供。



マラパスクア・エキゾチック・アイランド・ダイブセンター

スウェーデン人のレベッカさん&ジョアさんが経営するダイビングセンター。人気のダイビングセンターで、ガイドングや機動力、安全面の管理などに定評がある。日本人ガイドは不在だが、陽気なフィリピン人ガイドがケアしてくれる。彼らの眼力はピカイチで、ニタリザメを初め、様々なマクロの生き物を紹介してくる。ダイビングのスケジュールは、毎朝、早朝4時半集合のニタリザメ狙いのダイブ。9時のポートダイブ、リゾートでのランチ、1時半のポートダイブ。リクエストベースで、サンセットやナイトダイブができる。スケジュールにかなり余裕があるので、のんびりとリゾートライフも楽しむことができる。

